

新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

1944年第2回中国青海省 高校生登山交流会報告①

隊長 藤井 信

第2回日中高校生登山交流会も、多くの関係各位のご協力とご支援で、大成功でありました。心から御礼を申し上げます。

山協の役員、出発前に激励会で、ご支援くださった方々に礼状の宿題をだす。
東シナ海の海水の色が泥水に変わる、長江(揚子江)の河口が近くなったことを知る。

7月26日(火)、集合時間には暑い暑い長岡駅に、訪中隊のオールメンバーが揃う。

長江は青海省西部の可可希立山(ココシリシャン)に源を発し、中国大陸5200kmを横断、中国第一の大河で土砂を運び、長江の河口からはきだす泥水は、東シナ海を数拾糎にも色で染めている。

休日でないにもかかわらず、県山協の多くの方々の見送りを受ける。見送りの方々に、大きな荷物を車中に運ぶお手伝いもして載きました。ただ、ただ、感謝。

外海から予定時間より早く長江に入り、時間調整のため、鑿真号は錨を下ろし停泊する。河口の中には、崇明島、長興島など大きい島があり、途轍もない大河である。エンジンを開始した鑿真号は夥しい大小の船また船の中を長江から黄浦江を遡る。

上越新幹線/京浜急行と乗り継ぎ、横浜埠頭に到着。初めて体験する高校生は、少し緊張さみである。横浜港での出国手続きをすませ、今年の4月から新造船となった鑿真号の人となる。

黄浦江の対岸の浦東開発区には、新中国の経済発展の中心に相応しく、いたるところで超高層ビルの建設が見られる。

昨年、出航間もなく、台風の影響を受けたが、今回は穏やか航海である。台風の影響を受けず順調の航海である。船中生活も2日目になると順応する。高校生には、県

7月29日(金) 10時上海港、入国手続きを済ませて、中国に上陸する。青海省登山協会の、王琦さんの出迎えを受ける。予定では、上海/蘭州まで飛行機、蘭州からは青海省登山協会の車で、青海省の省都西寧市に入る計画であったが、鑿真号のダイヤグラムと中国国内の航空ダイヤグラムとの接続が悪く、上海/西安、西安で乗継いで、西安/蘭州と航空路の旅に変更になる。

ただ、感謝。

18時50分蘭州空港に着陸、蘭州空港には、青海省登山協会の人達の出迎えを受ける。夕食後、車で西寧市に向かう。途中、峠を越え、日も暮れて、夜空は満天の星空となる。道路脇で農民が売っている西瓜を美味しくなる。とても美味しい西瓜であった。

と順応する。高校生には、県

西寧市への自動車道路の路面には、刈取りが終わった麦藁をいっぱい敷き、走る自動車に踏ませて、麦藁を軟らかくする。冬の藁布団用や家畜の飼料にするのだと云う。日中は

警察の取締まりがあるので、道路沿線の農民の作業は夜だけのもので、うまい事を考えたものではない。自動車の運転手には走行の障害となり、たまたまのものではない。昨年と同様、西寧市の青海賓館に到着したのは深夜になってしまった。

7月31日(日) 午前中はゆっくり睡眠をとる、昼食を市街でとり、ラマ教六大寺の一



野牛山(中央)へ向う遠征隊

つのタール寺を見学する。夕方、青海省登山協会主催のレセプションに出席する。この席で、明日から日中高校登山交流隊のオールメンバーが顔を揃える。今回の中国側の高校生は、西寧市立運動体育学校の生徒達で、陸上競技の選手でゴールド・メダリストであると云う。

容姿端麗でカモシカのような足。これからの登山行動では、野牛山(イエニユジャン)4898・3mの登頂をめざして、日中高校生が相互協力の登山行動が待っている。なんと高校生は幸せんことか。初対面での自己紹介は、出発前のミーティングや合宿の成果か、高校生の努力か、中国語で自己紹介する日本の高校生が、中国の高校生より、一枚上であった。

8月1日(月)10時5分BCに向けて青海賓館を出発。西寧市の市街地のはずれには、青海省西寧市とチベットを結ぶ、青藏公路の起点のモニュメントがある。ここで、記念写真を撮り一路BCへと車は走る。途中、湟源県で昼食をとる。道路の両側の巨木のボ

プラ並木を走り抜け、やがて、湟水河沿えとなる。谷間はせまり、山は植林のあとのみられる、山の頂まで麦や菜が耕作されていて、麦の緑と菜の黄色のコントラストが美しい。日月峠(3520m)の手前

から、道路は青藏公路と別れて左折する。自動車は暫く走り、南响河の左岸にBC(3280m)を設営する。右岸には、4000m前後の草山が連なり、東へと延びて山は岩山と姿を変え、ドロミテ風の山の連山である。左岸は起伏のない草山で幾種類かの高山植物が咲き乱れ、野牛山へと高度を上げている。緑

中高年登山教室

9月10日・11日、中高年登山教室を妙高山で行いましたので報告します。

高令化進展の中、生涯スポーツとしての観点もあり、山の度に見る登山者は殆ど中高年で締め、また、家族登山での女性の事故が目立つようになった。

勤務状態の多業化で週内休

の草山の彼方には、残雪が三筋、川の字を作った岩山が望遠でき、残念なことには野牛山は、前山の陰で見ることができない。

青海省登山協会の隊員によって、食堂、炊事用。各自のテントは日中高校生の、共同作業でテントを設営、瞬く間に、テント村ができあがる。BCの設営も終わり、一段落したところで、日中高校生と一部の先生方は、BC近くの(3473m)の山に高所順応をかねて散策を楽しむ。現地の日没は、2時ごろで、午後の時間は長い。

妙高山

坂 井 厚

日もあり、単独・単なるグループ登山もみられる。中高年登山委員会としてそこに目を向けざるを得ない。

事故防止には、遭対委員会から「登山事故防止のために」を、山麓の山岳会に送り一般登山者に配付し、注意を喚起している。この教室参加者にも配付した。

時期は夏山初めが適当であるが、大病を患った事務方の経過を考え、9月上旬とした。実施した場合12時間から13時間近く要するものと思われる。平均54/55才の年令と、半ば以上の女男比の結果はどうなるのか。天気大半、参加者の体力・意志、リーダー等の教室内容によって決まってくる。

県関係4、新潟市関係2組織の後援を得、全県を対照したが、新潟市近辺が主体となった。広報は新潟市広報に余裕なく、新潟日報県都版、ポスター、口込みによった。

リーダー打合せでは、所要時間で中高年初心者には厳しいと批判があったが、パーティの責任はリーダーであり、パーティー一体の行動をとること。登頂断念、往路下山の判断は、全体行動をみながら判断することにした。リーダー達の参加者への事前連絡では、トレーニング等少し強めの助言となった。

数回等様々で教室経験者は少ない。天気予報明日不良の為、池ノ平へ寄り写真撮影。宿舎へ着後直ちに教室を開催する。教室の趣旨、藤井新山協副会長による「中高年の山岳遭難防止」講話があった。高田ハイクンクラブ七沢氏によるコース説明で終り、2宿舎に別れて宿泊。各室でも班毎の教室があった。

9月11日(日)晴後曇 夕より小雨 赤倉から燕温泉へ、2名の役員補助参加を得て、コースリーダー、班毎の出発となる。行動中、小休時等緒々の中味の濃い教室が、各班毎に随時行われた。見摺りの岩場では、2名の見張りと言言があった。雲が出眺望は無くなったが、夕方迄は何とか持ちこたうな天気の中、全員が広い山頂に到着。昼食時でも装備、食料、メンバーのあり方等話があった。

四辺の眺望無しで、七沢氏からイメージ説明となったが、受け方はどうであろうか。下山は計画どおりで出発。山頂直下の急坂で、杖の突方不良、赤土で滑り尻餅、転倒等一、三見受けられた。夏枯

9月10日(土)晴 新潟出発後各号車毎に教室の趣旨・リーダー紹介、初歩教室を行う。全く初めて、年

れの長助ノ池、口を潤した黄金清水で気をとり直し、大倉谷のヘッリ路と飛石に少し手間どる。初心者・高令者にはいささか厳しかったであろう長い下りで、深い霧から小雨がぱらつき始めた燕温泉に着した。12時間半弱の18時近くであった(早は11時間)。

婦路の車中で感想を載いた。高速道に強雨地域もあり、以後秋霖の走りを見せた。解散。

登りで3〜4時間位に。下りで厳しかった。落伍者が出たら別行動をとれないか。副次的なコースをとれないか。来年も継続を(大多数)等々の感想があった。

過去の事故例から登山教室を持つているので、性格上、別行動は考えていないことを述べた。メンバーシップ欠如の片鱗から、まだまだ教室内容に一考を要することを感じた。

幸いなる天気の良い機会を得、地元山岳会、献身的なリーダーら各山岳会の厚く強い協力を得、無事故で終わった事に感謝する次第です。

時間記録 9月11日
赤倉5時→燕温泉5時30

分→(燕登山道) ↓ 妙高
山T10時40分・L11時27分
↓ T12時25分・L12時35分
(燕新道) ↓ 燕温泉T
16時40分・L17時55分
T:先頭 L:最後

		男	女	計
参加人員 (人)				
一	般	38	57	95
	(性別比)	(40%)	(60%)	
役	員	22	9	31
	他	3		3
	計	63	66	129
実	登		-1	128

		最高年齢 (才)	
一	般	73(2人)	69(2人)
役	員	70	
	他	81	
(一般男 70才 1人)			

		平均年齢 (才)		
一	般	56.2	53.4	54.5
役	員	58.1	42.6	54.3
	他			
	計	56.9	52.0	54.1

		前回迄の教室経験数 (人)		
		13	18	31

		上が参加数の中の割合 (%)		
		34.2	31.5	32.6

夫婦参加数 19組 (初回 14組)
協力山岳会 7

わがクラブ ⑩ 安塚 高校

2年 高波和広

我が、伝統ある安高山岳部は、現在2年生3人で活動している。部員不足を技術の未熟さの言訳にはしたくないが、3人で活動していると、良い面もあるが、大変な面もある。良い面では、3人の心が通じ合っているというところや、アットホームな雰囲気

で活動が出来るというところだ。大変な面では、何となくとも大会の時だ。テントを設

営する時など、他の学校より遅れてしまったりする。こんなことから、体力、技術の大幅なアップとともに、部員を確保する事が、先決だと思

う。そのためには常時活動を、中味の濃いものにしていかねばならない。ぼくたちの常時活動としては、主に体力トレーニングか

走って登ったりする。5キロの方は、平坦な道をだいたい20分から25分の間で走る。城山は、後半に急登があり、山頂での休憩を入れないで、往復で50分くらいかかる。それが終わってから、60mくらいの坂をダッシュする。それを5本やる。

雨の日は、学校内で、廊下や階段を使用する。5階まで続く階段を登り下りをダッシュで5本やり、1本、1本をタイムを計りながらやる。また、1人をおんぶして、階段を登ったり、筋力トレーニングもやる。

登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736

高頭仁兵衛翁寿像碑修復にご協力を

厳しい暑さに別れを告げるかのように朝夕めっきり涼しくなりました。岳人の皆様には、いかがお過ごしですか。晴天続きの今シーズンは素晴らしい山行計画を果たすことができたのではないのでしょうか。

さて、この度は、高頭仁兵衛翁寿像碑の修復に皆様のご協力を仰ぐこととなりました。時節柄出費多端の折、誠に恐縮に存じますが、寿像碑修復の趣旨をご理解くださいまして特段のご配慮をお願い申し上げます。

この度の修復計画については、新潟県山岳協会 室賀会

長さん、日本山岳会越後支部に相談申し上げ賛同を得ましたので、地元弥彦山岳会が中心となり修復計画の趣旨に賛同する皆さんと実行委員会を設置し修復計画を実施することになりました。岳人皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

平成6年9月

高頭仁兵衛翁寿像碑修復計画実行委員会代表
弥彦山岳会会長

宿屋 昭二

岳人各位

高頭仁兵衛翁寿像碑修復趣意書

例年になく酷暑の続きました夏でした。皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、私どもの大先輩であります高頭仁兵衛翁の不撓不屈の登高心と尽くことなき功績を永久に偲ぶための寿像碑が現在地の弥彦山上大平園

地に移転建立して34年を経過しました。ご存知のとおり大平園地は厳しい自然条件下にあります。近年その荒廃が著しくこのまま放置しておくに修復しなければなりません。ここに、寿像碑を修復し、あらためて高頭仁兵衛翁の偉

業を称えんと共に大平園地の景観を保持してまいりたいと思っております。県下岳人皆様の特段のご協力をお願いする次第です。

寿像碑修復計画概要

一、修復の方法 傾斜している碑を原形に復し、碑の天部及び台・基礎部を補強する

一、修復の場所 現在地 弥彦山上大平園地

一、施工の時期 平成6年9月10月

一、経費の概算 金40万円

一、醸金の方法 実行委員及び有志の寄附による 1口

金50000円以上とする
一、事務の取扱 西蒲原郡弥彦村大字弥彦
弥彦村公民館内
弥彦山岳会事務局
(☎0256(94)4311 渡辺)

平成6年9月
高頭仁兵衛翁寿像碑
修復実行委員長
弥彦山岳会会長
宿屋 昭二

(お願い)

醸金については、出費多端の折、誠に恐縮でございますが2口以上お願い申し上げます。

一新刊紹介

上信越の山

山と溪谷社

このたび、山と溪谷社から登山・ハイキング案内書の定番シリーズ「上信越の山」が発刊された。内容は次の3部からなっている。

- ・谷川岳とその周辺 29 コース
- ・越後の山 32 コース
- ・頸城山塊と上信国境の山 15 コース

近年どこの山も観光ブームに便乗した開発で山麓の様相は一変、随所に林道が延びて戸惑うことの多い昨今だが、この本は、登山道をはじめ、山麓の道、交通機関、宿泊施設等、実地踏査に基づく最新情報が満載されている。また、登山起点から最高到達地点までの累積標高差や、

難易度の表示、そして、山名地名さくいんに至るまで、登山者、ハイカーの身になった細かいところ配りの編集は、使い勝手が良く、初心者はもちろん、ベテランも重宝するのではなからうか。

なかならず、年輩になって山登りを始めた中高年登山者にとっては、手軽で格好の必携書と思われる。

書名どおり、上信越の山を紹介したのだが、中身は上・信・越三県の山すべてを網羅したのではなく、「越後の山」では主として中越の山を、「頸城山塊」では妙高周辺と雨飾山、鉾ヶ岳など、上州では谷川岳周辺、信州では上信越国境の山に限定したガイドブックである。

いわば「谷川岳と越後・上中越県境の山々」といったタイトルがふさわしいような内容である。

それだけに、この地域の山はすべてといってよい程網羅され、内容も充実しているので一読の価値があろう。

なお、第2部「越後の山」は長岡ハイキングクラブ会員の共同執筆である。

(変形B6版 279頁)